

令和7年度

兵庫県立視覚特別支援学校

支援部

アイ・あい だより



7月号

7月7日は、七夕伝説の日。織姫はこと座の1等星・ベガで、彦星はわし座の1等星・アルタイルです。夜空の暗い場所では、2つの星の間に天の川が横たわっているようすを観察することができます。七夕伝説によると、年に1度、7月7日の夜に会うことができる織り姫と彦星ですが、2つの星の間は、14.4光年ほど離れていて、これは、光のスピードでも約14年半かかってしまう距離だそうです。

それでも、天の川で隔てられた織姫と彦星が年に1回会えるロマンチックな日。願いごとを書いた短冊を吊るしてみてもいいかもしれません。

さて、支援部では夏休みに以下の講座を予定しています。興味のある方はぜひご参加ください。

サマースクール

日時 令和7年7月28日(月) 10:00~12:00(受付開始9:30)
対象 本校の教育相談を受けている幼児児童生徒と家族
内容 プール。荒天時や雷注意報が発表されているときは体育館
申込 郵送またはFAXにて(7月11日(金)締め切り)
※参加費として100円必要です。

視覚障害のガイドヘルプ&点字体験

～見えない・見えにくいってどんなこと？～

日時 令和7年8月1日(金) 9:30~15:15(受付開始9:15)
対象 視覚障害や点字に興味がある方(小学生は保護者同伴のこと)
内容 「視覚障害ってなあに？」
全盲と弱視について、視覚障害者の立場からの話など。
「点字ってなあに？」
点字の成り立ち、身近にある点字の紹介、
点字盤で書いてみる、点字で遊ぼうなど。
「ガイドヘルプってなあに？」
視覚障害者を見かけた時に役立つポイント、手引きなど。
準備物 昼食、飲み物、帽子、マスク、体育館用のシューズ、ハンカチ
申込 FAXまたはWEBにて(7月17日(木)締め切り)



弱視教育研修会

日時 令和7年8月4日(月) 9:40~15:30
対象 小中学校等に在籍する弱視児童生徒にかかわる教職員
弱視教育に関心のある教職員 本校教職員
内容 講演 「弱視児童生徒への効果的な教科指導」
講師 元筑波大学教授 鳥山由子先生
※講演だけでなく、体験活動もあります。
体験活動「弱視キットによる弱視体験」
視覚障害関連機器の展示・見学・情報交換・交流会
準備物 体育館用のシューズ、ハンカチ
申込 メールでお申し込みください。

masuoka_yoshi@hyogo-c.ed.jp

記載内容・名前、所属、電話番号(緊急連絡が取れるもの)
情報交換会で話題にしたい内容があればお知らせください。

(7月24日(木)締め切り)



TOPICS

年中期の読みに繋がる活動

音韻意識が芽生えてくる時期です。音韻意識とは、「ことばの音の側面に注目し、操作する能力」です。簡単に言えば、「たなばた」=「た」「な」「ば」「た」という風に4つの音でできているということがわかることです。また、音韻意識は、文字の読み書きに繋がるといわれています。音韻意識を高める遊びとしては…①ことば手拍子(例)「ひこぼし」と言いながら音の数だけ手を叩く②しりとり③かるた④〇から始まる言葉を集めてみよう。(例)「あ」から始まる言葉・・・あさがお、あか、アイス etc 多いほうが勝ち。⑤〇抜きことば(例)「おりひめ」の「り」を抜くと・・・⑥替えことば(例)「あまのがわ」の「の」を「あ」に替えて言う「あまあかわ」(そんな言葉は無いようですが…)。等があります。多くの人が参加し、楽しい雰囲気の中、ゲーム感覚で始めてみてはいかがでしょうか。

年中期の書きに繋がる活動

年中になると、①手指の巧緻性の発達：線や形を描くことに興味を持ち始め細かい動きやコントロールが少しずつ向上します。②文字や記号への関心の高まり：自分の名前や好きな言葉、記号に興味を持ちはじめます。③自己表現とコミュニケーションの拡大：絵や文字を使って自己表現をしたい気持ちが強まります。どれも「書く」とは直接関係無いように思えますが、実は「書く」に繋がるととても大切な力になります。

取り組みとしては下の様なものもありますが、視覚情報のみに頼らず、触覚や聴覚など多感覚を利用して焦らずに行うことが大切です。また、成功体験を重ねることも大事です。

粘土遊びやビーズ通しなど、手先を使った活動を取り入れる。また、積み木やパズルも細かい動きの練習になります。ビーズ通しは、モールを使ってみてはいかがでしょうか？

手触りを楽しみつつ、ビーズの抜け落ちなどの失敗がありません